

## 第29回全国小学生作文コンクール

「わたしたちのまちのおまわりさん」

受賞名：全国少年警察ボランティア協会賞（高学年の部）

タイトル：安心安全の町をつくる警察官

氏名：川上 結愛（カワカミ ユナ）

小学校名：岡山県 新見市立思誠小学校 六年

私が友達と歩行者専用道路を下校しているとき、一台の車が「ビューン」と通りすぎました。その道は、すごくせまかったので、私はみぞに落ちそうになりました。私たちは、道のはしのギリギリのところ寄って車が通り過ぎるのを待ちました。車が通り過ぎてから、登下校班のみんなで、

「こわかったね。」

「危ないね。」

「最近、この道は車が通ることが多くなってきたね。」

と、話しました。とても危なくて、事故が起ころうともおかしくないのに、警察署に友達と相談しに行きました。

実際に警察署に着いて中に入る時、初めてのことで、とてもドキドキしました。おまわりさんは、私たちの話をきちんと聞いてくれるかどうか、とても不安でした。警察署に入って、担当のおまわりさんが出てきてくれました。私は、そのおまわりさんに、歩行者専用道路に車が通って、こわい思いをしていることを話しました。すると、おまわりさんが地図を持ってきてくれて、とても真剣に話を聞いてくれました。おまわりさんは、

「教えてくれてありがとう。よく分かったよ。これからはもっと、注意してパトロールしてみるね。」

と、言ってくれたのでうれしかったです。

警察署を出たとき、相談する前の不安な気持ちは消えていました。おまわりさんに、少しこわいイメージがあったけど、優しく接してくれたので、これからは何か困ったことがあれば、すぐに相談したいと思いました。

その相談をしてから、その道は車が通らなくなりました。友達とも、

「おまわりさんに相談してよかったね。」

「これで安心して、登下校できるね。」

と、話しました。

私たちみたいな小学生の小さな相談事も、真剣に聞いてくださって、すぐにパトロールをしてくれて、とてもありがたいなと思いました。こうしておまわりさんは、私たちの町を守り、安全に生活できるように、がんばってくれているんだなと思いました。

私も今まではおまわりさんを見ると、こわいイメージでしたが、今は何となく、近い存在

に感じるようになりました。これからも、一人一人の市民に寄りそって、赤ちゃんから高齢者まで、みんなが安心して安全に生活できる町を作ってほしいと思います。